

地域スポーツ活動参加者のコミュニティ・モラルに関する研究

韓 光 領・金子守男・李 真

The study of community morale of local sport participants

Kwangleong Han, Morio Kaneko, Zhen Li

The purpose of this study was to analyze community morale from different attributes of local sport participants in neighboring three cities.

The analysis methods were as follow:

- 1) to grasp characteristics of sample.
- 2) to consider the measuring results of community morale.
- 3) to consider community morale from attributes of non-investigators.

The result were as follow:

- 1) in local sport activities, participant-residents have various interests.
- 2) participants are not only seeking enjoy of sport activity, but also taking part in community activities or those organization.
- 3) because of community morale deference from attributes of participant, local sport activities could be possible to organize small community.

はじめに

コミュニティ（地域共同体，地域社会）が有する基本的な条件に，①領域性，②地域住民の交流活動，③地域住民の有効施設，④地域社会への接近意識の4つを列挙することができる（松原，1978）。地域社会において，こうした条件を整え易い活動に，スポーツ活動をあげることができる。

例えば，スポーツチームを近隣住民で構成するものと規定すれば，まず，近隣居住区域が集団の領域であり，試合が消化されていく過程においては，参加者間の交流活動，あるいは，試合場という施設の利用が必要不可欠である。そ

して，集団の地域社会への接近意識が強ければ，それは，スポーツ活動を行うために集まったコミュニティであると称するに値する。

こうしたことから，経済企画庁（1973）がコミュニティ形成施策の中で，スポーツ活動を重要な媒体手段として位置づけ，以後，各地の地方自治体がスポーツ活動を取り入れて施策に取り組んできたことが了解できる。

しかしながら，スポーツ活動のこうしたコミュニティ形成に果たす機能性を調査し分析するために行われてきた研究は数少なく，海老原（1981），中島（1983），川西（1985），国友（1987）の研究に例を見るのみである。これらの研究の中で，共通して取り扱われてきた変数は「コミュ

ニティ・モラル」, すなわち, 非調査者の地域社会への接近意識を計る概念である。このことから「コミュニティ・モラル」は, コミュニティを特徴づける最も重要な要素として, 研究者によって重要視されてきた概念であるといつてよい。

ところが, これまで地域スポーツ活動への参加者の「コミュニティ・モラル」を個人的な属性から分析し報告したものはなかった。こうしたことから, 我々は, 地域スポーツ参加者の「コミュニティ・モラル」を個人的属性から分析し, ひいては地域スポーツ活動の機能性を検討することを研究の目的とする。

研究の方法

調査対象

スポーツ参加者の「コミュニティ・モラル」を測定する場合, その活動組織が地域集団の特性を備えていなくてはならない。従って, 本研究では, 年齢, 性別, 学歴, 職業の異なる近隣住民で構成された地域スポーツ集団を調査対象として選出した。尚, 調査票の回収状況は表1に示す。

表1 調査表の配布・状況回収

調査対象	配布数	回収数	有効回答数
1986.6 A市	1,500	1,363(90.7)	963(70.1)
1987.9 B市	800	646(80.8)	433(67.0)
1987.11 C市	700	671(95.9)	604(90.0)

() = %

分析手順及び方法

本研究では近隣する3つの地域において地域スポーツ集団にアンケート調査を行った。まず最初に個々の地域の参加者の個人的属性を確認し, 次に12変数から構成される「コミュニティ・モラル」の合計得点を, 個々の個人的属性別に算出し考察を加えた。

「コミュニティ・モラル」の12項目の質問(表3)への回答方法は, それぞれの質問に対

して非調査者が, ①該当する, ②やや該当する, ③あまり該当しない, ④全く該当しない, という4段階の順位尺度のうち1つを選択する方法が採用されている。本研究ではリッカート法を用いて, この尺度に次のようなウエイトを与えた。

該当する: 4点

やや該当する: 3点

あまり該当しない: 2点

全く該当しない: 1点

従って, 「コミュニティ・モラル」の合計得点の最高点は48点となる。尚, 測定尺度の信頼性を確認するために, クロンバックの α 係数を算出したところ, A市:0.850, B市:0.877, C市:0.853であった。

結果と考察

1. サンプルの特性

表2は参加者の個人的属性を表す。結果によると, 3市ともほぼ同じようなサンプルの特性を有していることを確認できる。例えば, 年齢より参加者の個人的属性を見てみると3市とも40歳代, 30歳代の順に年齢層の比率が多く, これと比較すると20歳代, 50歳代以上の年齢層の比率はきわめて少なくなっており, 性別においても, 男女比はほぼ8対2となっている。また, 学歴より参加者の個人的属性を見てみると, 高校(旧中学)卒業, 義務教育卒業, 短大・高専・大学卒業の順にその比率は高くなっており, そして職業別に参加者の個人的属性を見てみると, 技能工, 生産工程作業に従事する者が多く, 主婦・パート・内職がこれに続き, 様々な職種に従事している者が地域スポーツ活動に参加していることを確認できる。つまり, 3市とも異なる利害関係を有する成員によって集団が構成されていることを推測できる。特に, 他の領域のスポーツ活動との比較において, 地域スポーツ活動がこうした利害関係の異なる住民同士の交流の機会を提供していることに, 着目すべき点があるといえる。

表2 参加者の個人的属性

	年 令					性 別			最 終 学 歴				
	20代	30代	40代	50歳以上	N・A	男 性	女 性	N・A	義務教育 終了	旧制中学・新 制高校・卒業	短大・高専・ 大学卒業	その他	N・A
A市 N=1,353	60(4.4)	551(40.7)	610(45.1)	119(8.8)	13(1.0)	1,042(77.0)	306(22.6)	5(0.4)	306(22.6)	750(55.4)	217(16.0)	41(3.0)	39(2.9)
B市 N= 433	26(6.0)	131(30.3)	226(52.2)	47(10.9)	3(0.7)	340(78.5)	89(20.6)	4(0.9)	137(31.6)	222(51.3)	44(10.2)	9(2.1)	21(4.8)
C市 N= 604	18(3.0)	257(42.5)	283(46.9)	40(6.6)	6(1.0)	443(73.3)	150(24.8)	11(2.1)	122(20.2)	306(50.7)	115(19.0)	21(3.5)	40(6.6)

	職 業										
	専門・技術的 職業従事者	管理的職業 従事者	事務従事者	販売・自営 従事者	農・林・漁業・ 酪農従事者	運輸・通信 従事者	技能工・生産 工程作業者	保安・サービ ス従事者	主婦・パート ・内職	その他	N・A
A市 N=1,353	126(9.3)	166(12.3)	153(11.3)	108(8.0)	66(4.9)	42(3.1)	340(25.1)	16(1.2)	219(16.2)	72(5.3)	45(3.3)
B市 N= 433	35(8.1)	25(5.8)	31(7.2)	45(10.4)	5(1.2)	28(6.5)	126(29.1)	8(1.8)	71(16.4)	43(9.9)	16(3.7)
C市 N= 604	70(11.6)	56(9.3)	85(14.1)	70(11.6)	5(0.8)	15(2.5)	143(23.7)	11(1.8)	117(19.4)	20(3.3)	12(2.0)

2. 参加者のコミュニティ・モラル

表3より、非調査者の「コミュニティ・モラル」を測定するための12項目の質問に対する回答結果を「該当する」と「該当しない」に分けて見てみると、3市とも「該当する」への回答率の高いことを確認できる。中でも、地域外に外出し帰宅した時に安堵感を抱くと回答する参加者の比率や(質問項目1)、地域政治への関心を示す参加者の比率が高く(質問項目10)、この町が好きであると回答する参加者の比率(質問項目4)や地域のリーダーの活動を高く評価する参加者の比率(質問項目6)がこれらに続いて高いことがわかる。地域政治への関心が高い、あるいは地域のリーダーの活動を評価できるといことは、このスポーツ活動への参加者は、ある程度、地域活動に参加したり、そうした活動組織に関与している住民の集まりであることを推測できる。つまり、このスポーツ集団は、ただ単に、スポーツ活動において楽しみを追求することのみに終始するのではなく、地域における何らかの活動にも参加や協力をしている集団であると考えられる。このことは地域における行事や事業に関心を示す者の比率が、無関心者のそれよりも高いことから推測することができる(表3質問項目11, 12)。

3. 個人的属性より見たコミュニティ・モラル

最後に、「コミュニティ・モラル」を参加者の個人的属性より見てみた。表4はその結果である。各属性別に「コミュニティ・モラル」の得点を高い順番に列挙すると以下のようなになる。

性別) A市: 男性, 女性

B市: 男性, 女性

C市: 男性, 女性

年齢) A市: 50歳代以上, 40歳代, 30歳代, 20歳代

B市: 50歳代以上, 40歳代, 30歳代, 20歳代

C市: 50歳代以上, 40歳代, 30歳代, 20歳代

学歴) A市: 義務教育終了, その他, 高校(旧中学)卒業, 短大・高専・大学卒業

B市: 高校(旧中学)卒業, 義務教育終了, 短大・高専・大学卒業, その他

C市: 高校(旧中学)卒業, 短大・高専・大学卒業, その他, 義務教育終了

職業) ここでは「専門・技術的職業従事者」, 「管理的職業従事者」, 「事務従事者」を「ホワイトカラー」, 「主婦・パート・内職」と「その

他」を除く職種を「ブルーカラー」として、表4に示す3つに分類し得点を算出した。

A市：ブルーカラー，主婦・パート・内職，ホワイトカラー

B市：ブルーカラー，主婦・パート・内職，ホワイトカラー

C市：ホワイトカラー，主婦・パート・内職，ブルーカラー

結果によると，加齢と共に「コミュニティ・モラル」の得点は高くなっており，このことは一般的な見解であるが，加齢と同時に地域社会への関与の可能性が高くなることを示唆するものであると考えられる。

表3 参加者のコミュニティ・モラル

1. 外出してこの町に帰ってきた時に、「自分の町に帰ってきた」と感じてホッとしますか。					
	該当する	やや該当する	余り該当しない	全く該当しない	N・A
A市 N=1,353	727(53.7)	471(34.8)	128(9.5)	12(0.9)	15(1.1)
B市 N= 433	212(49.0)	152(35.1)	50(11.5)	6(1.4)	13(3.0)
C市 N= 604	386(63.9)	141(23.3)	46(7.6)	5(0.8)	26(4.3)

2. 人からこの地域の悪口をいわれたら，何か自分の悪口をいわれたような気になりますか。					
	該当する	やや該当する	余り該当しない	全く該当しない	N・A
A市 N=1,353	344(25.4)	542(40.1)	379(28.0)	74(5.5)	14(1.0)
B市 N= 433	92(21.2)	161(37.2)	126(29.1)	41(9.7)	12(2.8)
C市 N= 604	203(33.6)	215(35.6)	133(22.0)	29(4.8)	24(4.0)

3. この町の人たちはみんな仲間だという気がしますか。					
	該当する	やや該当する	余り該当しない	全く該当しない	N・A
A市 N=1,353	280(20.7)	566(41.8)	488(33.1)	43(3.3)	16(1.2)
B市 N= 433	89(20.6)	165(38.1)	145(33.5)	23(5.3)	11(2.5)
C市 N= 604	174(28.8)	248(41.1)	146(24.2)	14(2.3)	22(3.6)

4. この町が好きですか。					
	該当する	やや該当する	余り該当しない	全く該当しない	N・A
A市 N=1,353	630(46.6)	573(42.4)	126(9.3)	10(0.7)	14(1.0)
B市 N= 433	173(40.0)	182(42.0)	58(13.4)	6(1.4)	14(3.2)
C市 N= 604	348(57.6)	187(31.0)	42(7.0)	3(0.5)	24(4.0)

5. この町の人たちのまとまりは良いほうだと思いますか。					
	該当する	やや該当する	余り該当しない	全く該当しない	N・A
A市 N=1,353	365(27.0)	668(49.4)	402(29.7)	174(12.9)	19(1.4)
B市 N= 433	99(22.9)	190(43.9)	102(23.6)	27(6.2)	15(3.5)
C市 N= 604	185(30.6)	248(41.1)	137(22.7)	8(1.3)	26(4.3)

6. この地区のリーダー達(町内会・PTA担当の役員)は地域のためによくやっているとと思いますか。					
	該当する	やや該当する	余り該当しない	全く該当しない	N・A
A市 N=1,353	613(45.3)	574(42.4)	138(10.2)	9(0.7)	19(1.4)
B市 N= 433	178(41.1)	169(39.0)	60(13.9)	9(2.1)	17(3.9)
C市 N= 604	322(53.3)	190(31.5)	67(11.9)	2(0.3)	23(3.8)

7. この地域に住んでいるみんなは，お互いに何かとお世話しあっていると思いますか。					
	該当する	やや該当する	余り該当しない	全く該当しない	N・A
A市 N=1,353	313(23.1)	677(50.0)	320(23.7)	21(1.6)	22(1.6)
B市 N= 433	89(20.6)	193(44.6)	125(28.9)	12(2.8)	14(3.2)
C市 N= 604	156(25.8)	275(45.5)	140(23.2)	8(1.3)	25(4.1)

8. この町の人たちは，お互いに協力する気持ち(団結心)が強いほうだと思いますか。					
	該当する	やや該当する	余り該当しない	全く該当しない	N・A
A市 N=1,353	327(24.2)	635(46.9)	340(25.1)	29(2.1)	22(1.6)
B市 N= 433	77(17.8)	184(42.5)	134(30.9)	22(5.1)	16(3.7)
C市 N= 604	160(26.5)	268(44.4)	138(22.8)	13(2.2)	25(4.1)

学歴より「コミュニティ・モラル」の得点を見てみると，C市を除くと，ほぼ，学歴が高くなるにつれて，その得点が低くなっていることがわかる。これは高学歴者になるに従って，社会移動の機会が多くなることに起因する結果であると考えられる。つまり，高学歴者ほど一定の地域社会での定着率が低くなるため，地域社会への接近意識が希薄になるということである。

ここでは，性別や職業より見た「コミュニティ・モラル」の得点結果に考察を加えることは困難であるが，ともあれ，地域スポーツ集団が利害関係の異なる住民によって構成されて

表 4 個人的属性より見たコミュニティ・モラルの得点

	性別		年齢				学歴				職業別		
	男	女	20代	30代	40代	50~	義務教育終了	旧制中学・新制高校卒業	短大・高専・大学卒	その他	ホワイトカラー	ブルーカラー	主婦・パート・内職
A市 N=1,353	37.51	36.91	34.59	37.38	37.38	39.40	38.05	37.42	36.44	38.00	35.54	38.75	36.88
B市 N= 433	36.37	34.90	33.25	36.10	36.10	38.74	36.13	36.22	35.81	34.38	36.55	37.54	37.03
C市 N= 604	39.14	37.87	36.66	38.83	38.83	40.74	38.39	39.13	38.56	38.60	40.00	38.44	38.49

いるということに着目した場合、このことは結果に示されるように、地域スポーツ活動が地域社会への接近意識の希薄な住民を巻き込んでの地域集団編成に機能を果たしているということを推測できる。異質結合による集団を、同質結合による集団と比較すると集団としてのまとまりが低いものと考えられるが、一連の地域スポーツ活動の過程には、集団としての結束力を高くしていくような活動の機会を有しているが故、こうした異質結合、あるいは地域社会への近接意識の希薄層を活動に参加させていくことが可能になるものと考えられる。

ま と め

本研究の目的は、地域スポーツ参加者の「コミュニティ・モラル」を個人的属性より分析し、地域スポーツ活動の機能を検討することであった。分析の手順は、次の通りである。

1) サンプルの特性を把握する。

2) 「コミュニティ・モラル」の単純集計の結果に考察を加える。

3) 個人的属性の「コミュニティ・モラル」の得点を算出し、これに考察を加える。

結果を要約すると次のようになる。

1) 本研究の調査対象とした地域スポーツ活動には、利害関係の異なる様々な地域住民が参加している。

2) 参加者は、ただ単にスポーツ活動に楽しみを追求することに終始することのみならず、地域活動やその活動組織にも関与している。

3) 「コミュニティ・モラル」の得点は、個々人の属性によって異なり、地域スポーツ活動は地域社会への接近意識の希薄層をも活動に参加させることを可能にする。

本研究の調査・分析結果より、地域スポーツ活動の機能を検討すると、地域スポーツ活動は相互の利害関係の異なる住民の交流を可能にさせる。従って地域社会への接近意識の希薄層を巻き込んでの地域集団編成に、地域スポーツ活動の有する1つの社会的な機能をみいだすことができる。

参 考 文 献

- 1) 海老原修, 江橋慎四郎, “コミュニティ・スポーツの社会的機能について”, レクリエーション研究, 8, P P. 41-50, 1981.
- 2) 金子守男, “地域スポーツ集団のコミュニティ活動に関する一考察”, レクリエーション研究, 17, P P. 13-20, 1987.
- 3) 経済企画庁編, “経済社会基本計画”, P P. 59-60, 1973.
- 4) 経済企画庁編, “コミュニケーション・スポーツ施設整備計画調査報告書”, P P. 14-18, 1974.
- 5) 川西正志, “スポーツ参加のコミュニティ・モラルに関する研究”, レクリエーション研究, 14, P P. 44-50, 1985.
- 6) 国友宏渉, “スポーツのコミュニティ形成に関する実証的研究”, 名古屋大学総合保健体育科学, 10-1, P P. 77-89, 1987.
- 7) 松原次郎, コミュニティの社会学, 東京大学出版会, 1, 1978.
- 8) 守能信次, “わが町のとうちゃんソフトボール”, 月刊社会教育, 346, P P. 32-37, 1985.
- 9) 守能信次, “地域スポーツ活動と伝統的地域集団の再編”, 体育の科学, 杏林書院, 7,

- pp. 197-500, 1988。
- 10) 中島豊雄, “地域社会におけるスポーツクラブの社会的機能”, 名古屋大学総合保健体育科学, 6-1, pp. 143-155, 1983。
- 11) 李真, “地域スポーツ参加者の属性及びコミュニティ意識とその活動態様についての研究”, 中京大学体育学研究科修士論文, 1988。
- 12) 鈴木宏, “コミュニティ・モラルと社会移動の研究”, アカデミア出版, 1, 1978。